
人間科学部

児童学科

人間科学部 児童学科

人材の養成および 教育研究上の目的

人間科学部では、いのちを大切に、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。(学則 第4条の2より)

カリキュラムポリシー

教育課程の編成方針

人間科学部では、児童学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広い科目を設置する。
2. 基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。
3. 幼稚園教諭一種、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。
4. 「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、現代社会の多様な課題に取り組み、国際的な視点をもって探究する力を養う。

ディプロマポリシー

学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。
2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

備考

1. 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの健やかな成長を促す人間性、倫理観、責任と自覚を持ち、その能力を常に高めていく意欲を有する人材を育成することが到達目標である。また児童学科では、学生は幼稚園教諭一種、保育士資格の取得を目指している。
2. カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、日本学術会議の幼児教育・保育分野および文部科学省、厚生労働省が定める幼稚園教諭、保育士資格の要件を参照基準として準拠している。
3. 系統的な教育が達成されるように、また学生が学びの連続性を確認できるように学修要覧に履修モデルを掲載し、学修の「見える化」に努めている。
4. 児童学科のカリキュラムは、就学前教育・保育や子育て支援をめぐる社会的な要請と連動する形で構築している。子どもや子育てに関わる政策や制度の変化に照準をあて、それらと有機的連携が保たれるよう必要に応じてカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを改善できるシステム（カリキュラム改訂委員会等）を有している。

人間科学部 児童学科では、社会動向や多様なニーズに応え、乳幼児期の保育・教育および子育て支援等に適切かつ柔軟に対応できる人材の育成を目標として質の高い保育者養成に努めている。したがって、保育者としての資質、知識、技術を的確に身につけ、高い専門性をもった豊かな人間性と国際的なセンス、優れたコミュニケーション能力を実現するための教育課程の編成を行っている。基本的に児童学の5つの分野である児童福祉、児童発達・心理、児童保健、児童教育・保育、児童文化についての学識を深めるだけでなく、教養や語学能力の向上に努め、さらに、本学部独自の体験プログラムを通して実践力を養い、3年次の特別研究や4年次の卒業研究を通して、自らの力で課題発見・解決ができる力を養成する教育課程となっている。このような教育課程と並行して、学生が希望する具体的な進路に対応するために、国家資格である保育士や教育職員免許法に定められた幼稚園教諭一種免許の資格取得希望者に対応したカリキュラムも配置している。また、資格取得を希望せず児童関連の職業やその他の職種、大学院進学を希望する者にも対応できる編成にもなっている。

1. 人間科学部 児童学科設置の趣旨及び社会的要請

近年、幼児教育・保育の無償化など社会的に福祉や教育について様々な取り組みが行われている。特に、少子化、核家族化、女性の社会進出に伴い、乳幼児期の保育・教育、子育て支援の分野に対する社会的要請が高くなっている。現在のわが国における保育・教育行政は、社会の大きな変革に伴って、保育所等の整備拡充が特に都市部において重要な課題となっている。その要因の一つとして、男女共同参画社会の概念が一般化し女性の社会参加が自然のこととなり、家庭で担ってきた子育てを、保育所をはじめとする社会的機関に委託する家庭が増加するなどの社会構造の変化があげられる。

平成15年11月の児童福祉法の改正により、保育士は名称独占資格とされ国家資格となった。保育士は「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うこと」という使命が明記され、国家資格化に伴い、その責務の重さが明確化された。一方、幼稚園は平成19年6月の学校教育法の一部改正により、従来の条文の冒頭に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして」という文言が挿入され、幼稚園が義務教育の前段階の教育機関としての位置づけが明らかとなった。また、学校教育法第1条の学校の定義においても、幼稚園が各学校の冒頭に記載され、幼稚園の教育機関としての存在意義が高い。今後の幼児教育のあり方について、時代の趨勢に鑑みた社会の幼稚園に対する新しい視点からの改革が進められている。また、保護者の要請に対応するため、保育所では延長保育、一時保育など、多様な保育サービスが展開されるようになってきた。同様に、幼稚園でも満3歳児の就園や教育時間終了後の預かり保育の制度が導入されている。さらに、認定こども園の制度が平成18年に施行され、内閣府によれば、平成31年4月1日には全国で7,208園となっている。平成27年4月からは、平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法に伴い、子ども・子育て支援新制度がスタートし、幼保連携型認定こども園では保育教諭として保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を持ち合わせている保育者が求められており、ほとんどの学生が保育士資格と幼稚園教諭一種免許状を取得している。

近年は保護者が安心して子育てができるよう保護者を支援していくことも保育者の重要な役割となっており、社会の動向や保育・幼児教育の現場の多様なニーズに応えられる保育者養成をめざし、本学部では常に教育課程の見直しをはかっている。また、外国籍の親子も増えており、国際的な広い視点から次世代を見据えた柔軟性の高いカリキュラムが求められるようになり、それらにも適応できる取り組みを積極的に行っている。海外研修や海外の大学との交流は見識を広めるよい機会となっている。

就職に関しては多様なニーズに応え、その支援体制を強化し、毎年就職率100%を目指してきめ細かな指導をし、目標を達成している。公務員（公立保育士を含む）への希望者が多く、例年高い合格率を維持していることも特筆すべき点である。また、保育者ばかりではなく、一般企業への就職希望者の指導も充実しており、学生の夢の実現に向けて支援している。卒業生は、それぞれの現場で活躍しており、とくに、在学中に培われたコミュニケーション能力、問題解決力の高さ等に対する社会からの評価は高い。

2. 人材育成の目標

わが国の少子化による影響は経済産業や社会保障の問題に留まらず、国や社会の存続基盤にかかわる重要な問題である。一方で、地球環境問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題である。このような背景の中で、いのちを大切に、生きる力を育み、平和と環境を堅持し、人類の持続可能な発展をもたらす社会が求められている。そこで、人間科学部では、保育・教育、発達・心理、文化、保健・福祉、環境等について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を備えた、高い専門性を持つ自立した人材を養成する。すなわち、豊かで平和な社会生活の実現とその持続をめざして「未来を担う人間のこころ豊かな成長を科学する」を理念とし、「理論」と「実践」がしっかりと身につけている人材や人間力の育成を第一に考える。

学位（児童学）については、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、次に掲げる知識や素質を身に付けた学生に対して授与される。①豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。②「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。③児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。④グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

3. 人間科学部 児童学科での学びの特色

人間科学部 児童学科では社会のニーズに応えた質の高い人材養成を行っている。授業において、アクティブ・ラーニング、PBL（問題解決型授業）などを導入し、その他にもさまざまな直接体験を通じた教育を行っている。それは、特に保育者を目指す学生にとって、子どもに必要とされる自主性・創造性を育てるために、環境などを通して保育・教育を実践できる力を培うことにつながっている。

本学部では、以下の4つの方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。①基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広く科目を履修できるように教養科目の全学共通化を図る。②幼稚園教諭一種免許、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」など「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。③基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学び、自主的に研究を進める姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で、柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。④「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、ESD（持続可能な開発のための教育）など今日的課題に取り組み、国際的な視野からも探究する力を養う。

学びの特色としては、他大学での取り組みの先駆となった独創的な以下の4つの体験型プログラムを有している。

（1）生活と自然体験

子どもは五感を駆使して自然とかかわり、いろいろな発見をし、感動する。1年次配当科目の「子どもと環境（演習）」において、日常の生活の中で感性を豊かにする体験をした上で、大学近くの自然豊かな等々力溪谷などで自然環境に親しみ、「気づくこと」「感じること」を会得する。また、2年次配当科目である「食農文化と子育て（演習）」では、近隣の畑での農業体験を通して人が協同することの大切さと食育の基本概念を学ぶ。食農文化は、幼児期からの心の教育として大切であり、いのちの大切さ、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人と自然の調和等を習得すると同時に、生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培う。

（2）子育て支援体験

学部内施設の子育て支援センター『ぴっぴ』を活用した体験学習は、本学部の大きな魅力となっている。『ぴっぴ』は全国の大学に先駆けて独自に創設された「親子の遊び場」であり、地域社会に開放されている。利用者は1日100名以上であり、親と子の遊び場であるばかりでなく、親同士のコミュニケーションの場ともなっている。令和元年度には、

利用者が延べ32万人を越えた。このような保育現場で2年生以上の学生は、「子育て支援演習」を通して学内において日常的に研修することができる。2年生から4年生にかけて、親子を観察し、親子とかかわり、保護者支援のニーズが高まる中、高い専門性をもった地域の子育て支援者になれるよう指導している。なお、この『びっぴ』の活動を活用した教育プログラムは、わが国の保育士養成施設や文部科学省、厚生労働省などの行政からも注目され、全国からの見学者も多く、学部におけるユニークな取り組みとしてだけでなく大学全体の評価を高める要因となっている。平成28年度に実施された大学基準協会での調査においても、高い評価を得た。

(3) 異文化理解体験

社会のグローバル化に対応するため、英語力を強化すると同時に他国語「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「イタリア語」「中国語」「アラビア語」「韓国語」の科目を配当し、受講することができる。また、教養科目の「国際化と異文化理解」、「日本文化の伝承」をはじめとしてさまざまなグローバル化に対応した教養科目を配置している。平成22年にニュージーランドのカンタベリー大学と大学間協定を締結、また平成26年にはオーストラリアのウーロンゴン大学教育学部と大学間協定を締結し、2年次科目の海外研修にて春休み期間に現地での幼児教育研修や学生の交換プログラム、学術的交流などが行われている。令和元年度には、グァム大学とも大学間協定を締結し、今後の様々な交流が期待される。その他、毎年、国内外の著名な研究者等を招聘し、学術講演会を開き、異文化理解の一助になっている。さらに、平成28年度よりTAPに参加し、グローバルな人材育成を推進している。

(4) 児童文化、自己表現体験

特別施設「スタジオ・シアター」は国内の児童関連学部でも例を見ない本格的な多目的施設で、そこでは児童演劇、ドラマ、ダンスなどの表現に関する演習授業が行われる。具体的には、「保育内容の理解と方法（身体表現）（言語表現）」「保育内容表現指導法」「子どもの身体表現指導法」などの科目である。これらの教育内容は、就学前教育を遂行する保育者としての感性を高め、コミュニケーション力と自己表現力豊かな人材育成に資するものである。

このように、本学部においては、子どもや保護者とかかわるための基本である豊かなコミュニケーション力を、さまざまな場面で高める機会を設定している。さらに、「インターンシップ」では、総合的なコミュニケーション力が要求される。また、直接子どもや保護者とかかわることができる様々な「ボランティア」活動や国内外におけるインターンシップを積極的に奨励し、これら就学前教育を担う保育者の最大の資質の一つであるコミュニケーション力を涵養すると同時に、理論と実践を兼ね備えた保育者、高い人間力を養成することに尽力している。

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目 ナンバリング
					保育士	幼児	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
001	人文学系	哲学(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-111	
002		哲学(2)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-112	
003		倫理学(1)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-113	
004		倫理学(2)	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-114	
005		倫理学(a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-115	
006		倫理学(b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-116	
007		文化人類学	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-117	
008		視覚芸術史(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-118	
009		視覚芸術史(2)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-119	
010		デザイン概論(1)	G 講義	2	—	—			2					他キャンパス開講	00-211	
011		デザイン概論(2)	G 講義	2	—	—				2				他キャンパス開講	00-212	
012		日本文学	G 講義	2	—	—			2					木内英実	00-213	
013		日本史(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-11A	
014		日本史(2)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-11B	
015		西洋史(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-11C	
016		西洋史(2)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-11D	
017		民俗学(a)	G 講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-11E	
018		民俗学(b)	G 講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-11F	
019		宗教学	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-11G	
020	教養科目	社会学(1a)	講義	1	—	—	1							後藤美緒	00-121	
021		社会学(1b)	講義	1	—	—	1							後藤美緒	00-122	
022		社会学(2a)	講義	1	—	—	1							後藤美緒	00-123	
023		社会学(2b)	講義	1	—	—	1							後藤美緒	00-124	
024		社会学入門(a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-125	
025		社会学入門(b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-126	
026		経済学(1a)	講義	1	—	—	1							坂本純一	00-127	
027		経済学(1b)	講義	1	—	—	1							坂本純一	00-128	
028		経済学(2a)	講義	1	—	—	1							坂本純一	00-129	
029		経済学(2b)	講義	1	—	—	1							坂本純一	00-12A	
030		日本経済論(a)	G 講義	1	—	—					1			他キャンパス開講	00-321	
031		日本経済論(b)	G 講義	1	—	—					1			他キャンパス開講	00-322	
032		政治学(1a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-12B	
033		政治学(1b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-12C	
034		政治学(2a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-12D	
035		政治学(2b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-12E	
036		日本の政治(a)	G 講義	1	—	—			1					他キャンパス開講	00-221	
037		日本の政治(b)	G 講義	1	—	—			1					他キャンパス開講	00-222	
038		国際関係論(1a)	G 講義	1	—	—	1							都築正奏	00-12F	
039		国際関係論(1b)	G 講義	1	—	—	1							都築正奏	00-12G	
040		国際関係論(2a)	G 講義	1	—	—	1							宮下大夢	00-12H	
041		国際関係論(2b)	G 講義	1	—	—	1							宮下大夢	00-12I	
042		日本国憲法	講義	2	—	○	2							高橋明弘	00-12J	
043		法学	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-12K	
044		民法	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-12L	
045		西洋経済史	G 講義	2	—	—	(2)	2						他キャンパス開講	00-12M	
046	人文地理学(a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-12N		
047	人文地理学(b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-12O		
048	現代中国論	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-12P		
049	人間科学系	教育学(1a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-131	
050		教育学(1b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-132	
051		教育学(2a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-133	
052		教育学(2b)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-134	
053		スポーツ・健康論	講義	2	—	—	2	(2)						他キャンパス開講	00-135	
054		心理学(1a)	講義	1	—	—	1							他キャンパス開講	00-136	

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目

「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目 ナンバ リング
					保育士	幼免	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
055	人間科学系	心理学(1b) 講義		1	—	—	1							他キャンパス開講	00-137	
056		心理学(2a) 講義		1	—	—		1						他キャンパス開講	00-138	
057		心理学(2b) 講義		1	—	—		1						他キャンパス開講	00-139	
058		心理学概論(a) 講義		1	—	—	1							森山徹	00-13A	
059		心理学概論(b) 講義		1	—	—	1							森山徹	00-13B	
060		心理学入門 講義		2	—	—	2							他キャンパス開講	00-13C	
061		社会とジェンダー(a) 講義		1	—	—		1						他キャンパス開講	00-13D	
062		社会とジェンダー(b) 講義		1	—	—		1						他キャンパス開講	00-13E	
063		国際化と異文化理解(a) G 講義		1	—	—					1			山中美子	00-331	
064		国際化と異文化理解(b) G 講義		1	—	—					1			山中美子	00-332	
065		日本文化の伝承(a) G 講義		1	—	—		1						榎本宗白	00-13F	
066		日本文化の伝承(b) G 講義		1	—	—		1						榎本宗白	00-13G	
067		自然・情報科学系	データサイエンスリテラシー(1) ※DS 講義		1	—	—	2	(2)						未定	00-149
068			データサイエンスリテラシー(2) ※DS 講義		1	—	—	2	(2)						未定	00-14A
069	文系のための統計基礎 ※MS 講義			2	—	—	2	(2)						未定	00-14B	
070	文系のための数理基礎 ※MS 講義			2	—	—	2	(2)						未定	00-14C	
071	論理学(1a) 講義			1	—	—	1							他キャンパス開講	00-141	
072	論理学(1b) 講義			1	—	—	1							他キャンパス開講	00-142	
073	論理学(2a) 講義			1	—	—		1						他キャンパス開講	00-143	
074	論理学(2b) 講義			1	—	—		1						他キャンパス開講	00-144	
075	生活とメディア 講義			2	—	—			2					松浦李恵	00-242	
076	公衆衛生学 講義			2	—	—					2			早坂信哉	00-341	
077	現代の物理(a) 講義			1	—	—	1							他キャンパス開講	00-145	
078	現代の物理(b) 講義			1	—	—	1							他キャンパス開講	00-146	
079	現代の化学 講義			2	—	—	2							他キャンパス開講	00-147	
080	現代の地学 講義			2	—	—	2							他キャンパス開講	00-148	
081	科学技術と社会 講義		2	—	—				2				他キャンパス開講	00-241		
082	情報処理演習(1) 演習	○	1	○	○	2							須藤智亜紀	00-14D		
083	情報処理演習(2) 演習	○	1	○	○		2						須藤智亜紀	00-14E		
084	情報処理演習(3) 演習		1	—	—			2					須藤智亜紀	00-243		
085	情報処理演習(4) 演習		1	—	—				2				須藤智亜紀	00-244		
086	その他	ボランティア(1) 実習		1	—	—								早坂信哉	00-951	
087		ボランティア(2) 実習		1	—	—								早坂信哉	00-952	
088		教養ゼミナール(1) 演習		2	—	—	2	(2)						別指定	00-953	
089		教養ゼミナール(2) 演習		2	—	—	2	(2)						別指定	00-954	
090		教養特別講義(1) 講義		2	—	—	2	(2)						別指定	00-955	
091	教養特別講義(2) 講義		2	—	—	2	(2)						別指定	00-956		
092	外国語科目	Communication Skills(1) 演習	○	1	○	○	2							杉本裕代, 小谷延良	02-111	
093		Communication Skills(2) 演習	○	1	○	○		2						杉本裕代, 小谷延良	02-113	
094		Reading and Writing(1) 演習	○	1	○	—	2							植野貴志子, 大塩真夕美	02-115	
095		Reading and Writing(2) 演習	○	1	○	—		2						植野貴志子, 大塩真夕美	02-117	
096		Basic English Training(a) 演習		1	—	—			1	(1)				丸山令子	02-211	
097		Basic English Training(b) 演習		1	—	—			1	(1)				丸山令子	02-212	
098		Grammar(1a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-213	
099		Grammar(1b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-214	
100		Grammar(2a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-215	
101		Grammar(2b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-216	
102		Test Taking Skills(1a) 演習		1	—	—			1	(1)				松本弘法	02-217	
103		Test Taking Skills(1b) 演習		1	—	—			1	(1)				松本弘法	02-218	
104		Test Taking Skills(2a) 演習		1	—	—			1	(1)				植野貴志子, 杉本裕代	02-219	
105		Test Taking Skills(2b) 演習		1	—	—			1	(1)				植野貴志子, 杉本裕代	02-21A	
106		Test Taking Skills(3a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-311	
107		Test Taking Skills(3b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-312	
108	Critical Reading(1a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-22B		

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目 ナンバ リング	
					保育士	幼免	1年		2年		3年		4年				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
109	英語科目(スキル)	Critical Reading(1b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22C	
110		Critical Reading(2a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22D	
111		Critical Reading(2b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22E	
112		Critical Reading(3a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-313	
113		Critical Reading(3b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-314	
114		Critical Listening(1a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-21F	
115		Critical Listening(1b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-21G	
116		Critical Listening(2a) 演習		1	—	—			1	(1)					杉本裕代, 松本弘法	02-21H	
117		Critical Listening(2b) 演習		1	—	—			1	(1)					杉本裕代, 松本弘法	02-21I	
118		Critical Listening(3a) 演習		1	—	—			1	(1)					杉本裕代	02-315	
119		Critical Listening(3b) 演習		1	—	—			1	(1)					杉本裕代	02-316	
120		Communication Strategies(1a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-21J	
121		Communication Strategies(1b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-21K	
122		Communication Strategies(2a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-21L	
123		Communication Strategies(2b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-21M	
124		Communication Strategies(3a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-317	
125		Communication Strategies(3b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-318	
126		Academic English(1a) 演習		1	—	—			1	(1)					岡野恵, 沢村静	02-21N	
127		Academic English(1b) 演習		1	—	—			1	(1)					岡野恵, 沢村静	02-21O	
128		Academic English(2a) 演習		1	—	—			1	(1)					植野貴志子	02-21P	
129		Academic English(2b) 演習		1	—	—			1	(1)					植野貴志子	02-21Q	
130		Academic English(3a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-319	
131		Academic English(3b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-31A	
132		英語科目(教養)	Literature in English(1a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-221
133			Literature in English(1b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-222
134			Literature in English(2a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-223
135			Literature in English(2b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-224
136			Global Culture(1a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-225
137			Global Culture(1b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-226
138			Global Culture(2a) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-227
139	Global Culture(2b) 演習			1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-228	
140	Language Sciences(1a) 演習			1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-229	
141	Language Sciences(1b) 演習			1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22A	
142	Language Sciences(2a) 演習			1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22B	
143	Language Sciences(2b) 演習			1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22C	
144	Global Society(1a) 演習			1	—	—			1	(1)					沢村静	02-22D	
145	Global Society(1b) 演習			1	—	—			1	(1)					沢村静	02-22E	
146	Global Society(2a) 演習			1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22F	
147	Global Society(2b) 演習		1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-22G		
148	共通	海外・特別選抜セミナー 演習		2	—	—	2	(2)						他キャンパス開講	02-931		
149		外国語特別講義(a) 演習		1	—	—			1	(1)				吉田国子	02-932		
150		外国語特別講義(b) 演習		1	—	—			1	(1)				吉田国子	02-933		
151	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1a) 演習		1	—	—			1	(1)				清水紀子	02-241		
152		ドイツ語(1b) 演習		1	—	—			1	(1)				清水紀子	02-242		
153		ドイツ語(2a) 演習		1	—	—			1	(1)				清水紀子	02-243		
154		ドイツ語(2b) 演習		1	—	—			1	(1)				清水紀子	02-244		
155		フランス語(1a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-245		
156		フランス語(1b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-246		
157		フランス語(2a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-247		
158		フランス語(2b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-248		
159		スペイン語(1a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-249		
160		スペイン語(1b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-24A		
161		スペイン語(2a) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-24B		
162		スペイン語(2b) 演習		1	—	—			1	(1)				他キャンパス開講	02-24C		

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目 ナンバ リング
					保育士	幼児	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
163	外国語科目	イタリア語(1a)	演習	1	—	—			1	(1)					清水英夫	02-24D
164		イタリア語(1b)	演習	1	—	—			1	(1)					清水英夫	02-24E
165		イタリア語(2a)	演習	1	—	—			1	(1)					清水英夫	02-24F
166		イタリア語(2b)	演習	1	—	—			1	(1)					清水英夫	02-24G
167		中国語(1a)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24H
168		中国語(1b)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24I
169		中国語(2a)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24J
170		中国語(2b)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24K
171		アラビア語(1a)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24L
172		アラビア語(1b)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24M
173		アラビア語(2a)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24N
174		アラビア語(2b)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24O
175		韓国語(1a)	演習	1	—	—			1	(1)					長渡陽一	02-24P
176		韓国語(1b)	演習	1	—	—			1	(1)					長渡陽一	02-24Q
177		韓国語(2a)	演習	1	—	—			1	(1)					長渡陽一	02-24R
178		韓国語(2b)	演習	1	—	—			1	(1)					長渡陽一	02-24S
179		日本語表現(a)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24T
180		日本語表現(b)	演習	1	—	—			1	(1)					他キャンパス開講	02-24U
181	体育科目	人間と健康	講義	○	2	○	—	2							高橋うらら	01-113
182		健康と運動(1)	実技		1	○	○	2							長堂益丈	01-114
183		健康と運動(2)	実技		1	○	○		2						高橋うらら	01-115
184	PBL科目	SD PBL(2)	演習	○	1	—	—			2	(2)				木内英美・高橋うらら	03-99B
185		SD PBL(3)	演習	○	1	—	—					2			未定	03-99C
186	専門科目	保育原理	講義	○	2	○	—	2							横山草介, 室井真紀子	51-221
187		教育原理	講義	○	2	○	○			2					横山草介	51-222
188		教育社会学	講義		2		○			2					横山草介	51-223
189		子ども家庭福祉	講義	○	2	○	—	2							泉秀生	51-261
190		社会福祉	講義		2	○	—				2				泉秀生	51-262
191		社会的養護(1)	講義		2	○	—			2					泉秀生	51-263
192		保育者論	講義		2	○	○					2			園田巖	51-341
193		発達心理学(1)	講義	○	2	○	○		2						井戸ゆかり	51-224
194		教育心理学	講義		2	○	○				2				紺野道子	51-321
195		子ども家庭支援の心理学	講義		2	○	—				2				井戸ゆかり	51-322
196		子ども理解の理論と方法	演習		2	○	○					2			井戸ゆかり, 亀田佐知子	51-361
197		子どもの保健と健康	講義		2	○	○			2					早坂信哉, 高橋うらら	51-371
198		子どもの安全と健康	演習		1	○	—				2				玉内裕美	51-372
199		子どもの食と栄養	演習		2	○	—		2						早坂信哉, 西中川まき	51-271
200		子ども家庭支援論	講義		2	○	—			2					泉秀生	51-264
201		保育の計画と評価	講義		2	○	—				2				室井真紀子	51-342
202		カリキュラム論	講義		2		○					2			横山草介	51-343
203		保育内容総論	演習		2	○	○			2					原田留美	51-344
204		保育内容健康指導法	演習		2	○	○					2			高橋うらら	51-345
205		保育内容人間関係指導法	演習		2	○	○			2					室井真紀子	51-346
206		保育内容環境指導法	演習		2	○	○					2			松橋圭子	51-347
207		保育内容言葉指導法	演習		2	○	○				2				原田留美	51-348
208	保育内容表現指導法	演習		2	○	○				2				小林由利子	51-349	
209	乳児保育(1)	講義		2	○	—		2						井戸ゆかり, 亀田佐知子	51-265	
210	乳児保育(2)	演習		2	○	—					2			未定	51-362	
211	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	演習		2	○	○				2				園田巖, 紺野道子	51-266	
212	社会的養護(2)	演習		1	○	—						1		園田巖, 浦野耕司	51-363	

※保育実習の履修組合せ

	実 習	実習準備授業科目	開講時期・実習時期
○必修として「保育所」「施設」の両方の実習を行う	保育実習(1)(保育所・施設)	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)	3年前期
△選択必修として「保育所」または「施設」のどちらかの実習を行う。	保育実習(2)(保育所) 保育実習(3)(施設)	保育実習指導(2)(保育所) 保育実習指導(3)(施設)	4年前期

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目 ナンバ リング
					保育士	幼児	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
213		子育て支援 演習		2	○	—							2		園田巖	51-364
214		保育内容の理解と方法(音楽表現) 演習		1	○	○			2						岩田遵子	51-34A
215		保育内容の理解と方法(造形表現) 演習		1	○	○		2							大塚習平	51-241
216		保育内容の理解と方法(身体表現) 演習		1	○	○			2						高橋うらら	51-242
217		保育内容の理解と方法(言語表現) 演習		1	○	○	2								小林由利子	51-243
218		保育実習(1)(保育所・施設) 実習		4	○	—					4				園田, 室井, 泉, 原田	51-3B1
219		保育実習指導(1)(保育所) 演習		1	○	—					2				園田巖, 室井眞紀子	51-3B2
220		保育実習指導(1)(施設) 演習		1	○	—					2				泉秀生, 原田留美	51-3B3
221		保育実習(2)(保育所) 実習		2	△	—						2			園田巖, 室井眞紀子	51-4B1
222		保育実習指導(2)(保育所) 演習		1	△	—						2			園田巖	51-4B2
223		保育実習(3)(施設) 実習		2	△	—						2			泉秀生, 原田留美	51-4B3
224		保育実習指導(3)(施設) 演習		1	△	—						2			泉秀生, 原田留美	51-4B4
225		保育・教職実践演習(幼稚園) 演習		2	○	○							2		横山, 紺野, 園田, 松橋, 室井	51-4B5
226		発達心理学(2) 演習		2		—			2						紺野道子	51-323
227		臨床心理学 演習		2		—						2			紺野道子	51-421
228		音楽実技入門 演習		2	—	—	2								上野, 小寺, 江口, 島内, 本城	51-244
229		音楽実技(1) 演習		2	○	—	2								岩田, 上野, 小寺, 江口, 本城	51-245
230		音楽実技(2) 演習		2		—			2						岩田, 上野, 小寺, 平岩, 島内, 杉浦	51-34B
231		造形 演習		2		—			2						大塚習平	51-246
232		児童文化 演習		2		—	2								小林由利子	51-281
233		子どもと昔話 講義		2		—						2			原田留美	51-282
234		手話 演習		2		—	2								新井孝昭	51-191
235		子どもと人間関係 演習		2		○	2								室井眞紀子	51-283
236		子どもと言葉 演習		2		○			2						木内英実	51-284
237		教育学概論 講義		2		—		2							横山草介	51-225
238		子どもの造形表現指導法 演習		2		△				2					大塚習平	51-34C
239		子どもの身体表現指導法 演習		2		△				2					高橋うらら	51-34D
240		子どもの音楽表現指導法 演習		2		△				2					岩田遵子	51-34E
241		幼児教育方法論 講義		2		○				2					室井眞紀子	51-34F
242		教育相談 講義		2		○				2					紺野道子	51-365
243		幼稚園教育実習(1) 実習		2		—	○			2					大塚, 木内, 松橋	51-3B4
244		幼稚園教育実習指導(1) 演習		1		—	○			2					大塚, 木内, 松橋	51-3B5
245		幼稚園教育実習(2) 実習		2		—	○				2				大塚, 木内, 松橋	51-4B6
246		幼稚園教育実習指導(2) 演習		1		—	○				1				大塚, 木内, 松橋	51-4B7
247		インターンシップ(1) 実習		1		—	—								木内英実	51-3A1
248		インターンシップ(2) 実習		1		—	—								木内英実	51-3A2
249		子どもと環境 演習		2		○	2								松橋圭子	51-285
250		海外研修(1) 演習		2		—	—								小林由利子	51-391
251		海外研修(2) 演習		1		—	—								小林由利子	51-392
252		海外研修(3) 演習		1		—	—								室井眞紀子	51-393
253		子育て支援演習 演習		2	○	—			1	1	1	1	1	1	泉秀生, 松橋圭子	51-3B6
254		食農文化と子育て(1) 演習		2	○	—			2						野村明洋	51-272
255		食農文化と子育て(2) 演習		2		—			2						関山隆一	51-273
256		児童学入門 講義	○	2	○	—	2								全教員	51-111
257		基礎ゼミ 演習	○	2	○	—	2								全教員	51-211
258		特別研究 演習	○	4	○	—				2	2				全教員	51-311
259		卒業研究 演習	○	6	○	—									全教員	51-411

専門科目

「—」は、資格取得要件としては対象外となる科目。
資格取得の詳細は、別途資格取得のための要綱を参照すること。

注 卒業必要単位数は下表のとおりとする。

合計	124単位	以下を含むこと		
教養科目		右記を含むこと	○必修	2単位
外国語科目	20単位	右記を含むこと	○必修	4単位及び選択 4単位
体育科目		右記を含むこと	○必修	2単位
PBL科目	2単位	右記を含むこと	○必修	2単位
専門科目	90単位	右記を含むこと	○必修	22単位
数理・データサイエンスプログラム (※DS及び※MS)	4単位	右記を含むこと	※DS	1単位

科目ナンバリング： YY-LMD

YY:科目区分	51:児童学科 専門科目				
L:レベル	1:入門	2:基礎	3:応用	4:卒業研究	5:その他
M:科目群	1:児童学研究	2:保育・心理	3:体育	4:保育内容	5:情報
	6:福祉	7:保健	8:文化	9:国際・他文化	A:キャリア
	B:実習				
D:識別番号					

履修要綱

履修要綱は本学学則第5章及び第8章に基づいて定められたものである。従って、学生は授業を受けるにあたっては、特にこれを熟読しなければならないものである。

1. 単位について

1. 単位制度

本学の教育課程は単位制度に基づいて編成されており、学修の基本でもあるので、単位制度の本質を十分に理解する必要がある。単位は履修した科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるもので、そのレベルに達するためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、予習、復習、宿題などの自学自習を必要とする。

大学の授業は講義、演習、実験、実習及び実技等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間として、学則第18条の基準に従って計算されるが、本学では講義および演習については、2時間の授業に対して4時間の自学自習を行わせることを基準にしている。

なお、本学人間科学部を卒業するためには4年以上在学して総計124単位以上を修得しなければならない。

2. 単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なるので、週1時限(2時間)の授業に対して与えられる単位数は次のとおりである。(学則第18条参照)

(1) 講義・演習

2時間の授業、4時間の自学自習、週1回半期15週では、

$$(2+4) \times 15 = 90 \text{時間} \quad 90 \div 45 = 2 \text{単位}$$

通年30週の場合は4単位

(2) 実験・実習・製図・実技

2時間の授業、1時間の自学自習、週1回半期15週では、

$$(2+1) \times 15 = 45 \text{時間} \quad 45 \div 45 = 1 \text{単位}$$

ただし、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数を増加してある。

また、学則第18条の2に基づき、各授業科目の授業は、10週または15週にわたる期間とするものの、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげる場合、この期間を変更する場合がある。科目によってはクォーター開講(前学期・後学期をさらに分割した期間で開講)する場合があるが、詳細は授業時間表で確認すること。

3. 単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験(中間試験その他の評価を含む)によりその成果を判定した上で単位を与える。この場合の履修とは単位制度に基づくものであって、所定の単位を修得するためには必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければならない。

なお、履修したが合格点に達しないため単位を与えられなかった科目のうち、単位を修得しておかなければならない科目は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければならない。

2. 授業科目について

1. 科目の区分

授業科目はその内容により、「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「PBL科目」「専門科目」の各区分に分ける。それぞれに属する各授業科目については“教育課程表”に記載されているので同表を参照すること。

また、「保育士」資格および「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには、別途、当該資格を取得するための履修要綱を参照し、これに基づき必要な単位を修得すること。

2. 科目の種類

授業科目は必修科目、選択必修科目、および選択科目に分ける。その定義は次のとおりである。

- (1) 必修科目……………必ず履修しなければならない科目（教育課程表中の○印）
- (2) 選択必修科目……学科で指定された科目の中から選択して履修しなければならない科目（教育課程表中の△印）
- (3) 選択科目……………自由に選択して履修できる科目（教育課程表中の無印）

なお、科目の選択は各自の履修上慎重な配慮を要するものなので、選択にあたっては必ず3-3の履修方針の作成の項を参照すること。

3. 履修について

1. 卒業の要件

本学を卒業するためには4年以上在学して、次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得する必要がある。なお、この表は各自の履修の基準になるので学年始毎に参照すること。

区 分	卒 業 要 件	
教養科目	20単位	必修科目（○印）8単位を含む。
外国語科目		
体育科目		
PBL科目	2単位	
専門科目	90単位	必修科目（○印）22単位を含む。
小 計	112単位	
自由選択※1	12単位	
合 計※2	124単位以上	

※1 自由選択として、各区分の卒業要件を超える分を合算して12単位以上修得しなければならない。

※2 数理・データサイエンスプログラム（※DS及び※MS）に指定されている科目の中から4単位を修得し、その中にはデータサイエンス（※DS）に指定されている科目より1単位を含むこと。

2. 履修科目区分

教養科目 「教養科目」区分は、「外国語科目」「体育科目」区分とあわせて、20単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」が必修であり、また、「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」「日本国憲法」が必修となるので留意すること。

外国語科目 「外国語科目」区分は、「教養科目」「体育科目」区分とあわせて、20単位以上を修得しなければならない。その中で「外国語科目」は、必修4単位と選択科目として、必修科目以外の英語科目（スキル）、英語科目（教養）、共通科目、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、アラビア語、韓国語、日本語表現の中から4単位を修得することで、必要最小単位数を充たすことになる。また、「保育士」資格取得のためには「Communication Skills(1)」「同(2)」「Reading and Writing(1)」「同(2)」が必修であり、「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには「Communication Skills(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

体育科目 「体育科目」区分は、「教養科目」「外国語科目」区分とあわせて、20単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「人間と健康」「健康と運動(1)」「同(2)」が必修であり、また、「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには「健康と運動(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

PBL科目 「PBL科目」区分における必要最少単位数は**2単位**である。SD PBL(2)～(3) **2単位**を修得することで、必要最少単位数を充たすことになる。

専門科目 「専門科目」区分における、必要最少単位数は90単位である。必修科目・選択必修科目等について留意すること。また、「保育士」資格および「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには別表に従うこと。

自由選択 上記4区分の必要最少単位数の小計は112単位となるが、卒業要件を充たすには、各区分の必要最少単位数を超えた分を合算して12単位以上取得しなければならず、この12単位分を「自由選択」とする。これにより、卒業要件は合計124単位となる。

副専攻プログラム 学際的なテーマ、あるいは特定学問分野に関する授業科目で編成されるプログラムであり、複眼的な思考力と統合的な理解力の育成を目的としている。該当する授業科目を10単位以上取得することで履修した副専攻プログラムの修了が認定される（修了要件はプログラムより異なるので、注意すること）。副専攻プログラムの履修によって取得した科目の大半は「他学部他学科科目」であるが、自由選択科目として卒業要件単位に含めることができる。なお、プログラムの修了を認定するには、所定の申請書を提出することが必要である。

以下に本年度から始まる副専攻プログラムの名称などを記す。

プログラム名称	担当学部	履修可否	修了要件
社会変革のリーダー育成	教育開発機構	可	14単位
エンジニアリング教養	理工+建都デザイン	否	—
データサイエンス技術者養成	情報工	可	10単位
情報デザイン	メディア情報+都市生活	可	12単位
情報マネジメント	メディア情報	可	12単位
環境基礎	環境	未定	—
情報工学基礎	メディア情報	否	—
都市・マーケティング	都市生活	未定	—
児童学基礎	人間科学	可	10単位

各プログラムを構成する科目群などの詳細は、ガイダンスなどで紹介・説明する。また、新たな副専攻プログラムが創設されたときは、学期当初のガイダンスなどで紹介する。

数理・データサイエンスプログラム 社会から数理的思考力とデータ分析・活用能力の修得が求められている。その要請に応えるため、卒業要件として「数理・データサイエンスプログラム」の充足を定めた。「数理・データサイエンスプログラム」は、数理科学分野（教育課程表備考欄の※MSが該当科目である）とデータサイエンス分野（教育課程表備考欄の※DSが該当科目である）で構成され、データサイエンス分野（※DS）1単位以上を含み、合計で4単位以上の修得を要する。これを充たさないと卒業延期となるため、注意すること。

学部	学科	合計 (※MS+※DS)	※MS	※DS (1単位以上を修得)	
環境学部	環境創生学科	4単位	卒業要件充足で充たす	データサイエンスリテラシー(1) 1単位 データサイエンスリテラシー(2) 1単位	
	環境経営システム学科	4単位	統計学基礎○ 数学入門 環境数学入門 環境統計学 マネジメント数学	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	データサイエンスリテラシー(1) 1単位 データサイエンスリテラシー(2) 1単位 アルゴリズムとデータ構造 2単位
メディア情報学部	社会メディア学科	4単位	統計学基礎○ 応用統計	2単位 2単位	データサイエンスリテラシー(1) 1単位 データサイエンスリテラシー(2) 1単位
	情報システム学科	卒業要件充足で充たす			
都市生活学部	都市生活学科	4単位	文系のための数理基礎	2単位	データサイエンスリテラシー(1) 1単位
			統計と分析	2単位	データサイエンスリテラシー(2) 1単位
人間科学部	児童学科	4単位	文系のための統計基礎	2単位	データサイエンスリテラシー(1) 1単位
			文系のための数理基礎	2単位	データサイエンスリテラシー(2) 1単位

○印：当該学科の必修科目

3. 履修方針の作成

- (1) 学期の始めに当たっては、「シラバス（教授要目）」を熟読するとともに入学した年度の教育課程表を充分理解した上で、各自一年間の履修方針を定めること。
- (2) 当該年度に組まれている授業時間表に基づいて、必修科目、選択必修科目、選択科目の順に、履修方針に基づいて選択し、履修申告をしなければならない。
- (3) 自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することはむずかしいので、科目選択に当たっては、クラス担任教員等の助言を受けて、適正に選択することが必要である。
- (4) 所属学年に組まれている授業科目はその学年で修得するよう努力すべきである。次の年度で再履修しようとしても授業時間や試験時間が重複して履修できない場合があるからである。また、学年進行に伴うカリキュラム変更等により、当該年度の開講をもって廃止となる場合や新規に開講する科目に振替える場合があるので、各自キャンパス内掲示板やポータルサイト等で十分に確認、注意をすること。

4. 履修登録の流れ

履修登録とは、その学期に履修する科目を登録することである。登録はWEB上から指示された日までに必ず行うことが必要である。この手続を経ない科目は、受講の上、試験に合格しても単位は与えられない。以下は、履修登録に関する各学期の流れである。

(1) 履修科目の選択・調整期間

学期開始から履修登録までに1～2週間の期間がある。この期間は、前述3の履修方針にあわせて「学修要覧」「シラバス（教授要目）」等を参考にしながら、実際に授業に出席することで、自分の履修科目を選択し確定するためのものである。

なお、この期間に履修者を調整する科目もある。履修登録前に履修者を確定する場合もあるので、1週目の授業は特に重要である。

(2) 履修科目の登録

履修登録はWEB上から行う。なお、登録期間後の履修科目の追加はできない。また、本人の不備による履修登録の誤りは、すべて自己の責任となるので、特に慎重な注意が必要である。

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合には、WEB上での登録ではなく、別途所定用紙（特別履修科目履修申告書など）により提出する。科目によっては担当者の許可印を必要とする場合もある。

(3) 履修登録の確認

履修登録の1～2週間後、履修科目が正しく登録できているか否かを確認する機会を設けている。

(4) クォーター開講科目の履修登録

科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが、履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期ごとに行う必要があるので注意すること。

(5) 大学院先行履修制度

本大学では、学部在学中に、大学院修士課程の授業科目を先行履修することができる。（ただし在学年次、受講資格等制限がある）。

なお、本大学院に進学後、各研究科各専攻において、修得した単位を「10単位」を超えない範囲で認定することができる。申請手続等詳細については、事務局で確認すること。

5. 習熟度別クラス編成・履修免除

英語科目においては、入学後オリエンテーション期間内で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合がある。詳細は、別途配布される「授業時間表」の注意事項を参照すること。

6. 履修登録単位数の制限

(1) 履修登録単位数の上限

1学期あたりの履修登録単位数は24単位を上限とする。

なお、通年科目については、単位数に1/2を乗じた値を1学期分の単位数とする。

(2) 履修登録単位数の上限対象外とする科目

「保育士」資格および「幼稚園教諭一種免許状」取得のために必要な科目（教育課程表の「資格区分」において「○」「△」印の科目）については、履修登録単位数の制限内に含まない。

また、「集中講義系科目」「学外実習系科目」「海外体験関係科目（「海外研修」等）」「教職に関する科目」「卒業要件非加算科目」についても、履修登録単位数の制限内に含まない。具体的な科目については、事務局に確認すること。

7. 履修登録上の注意事項

(1) 「履修登録」

「履修登録」は、WEB上から行う。他学部、他大学などの科目を履修する場合は、WEB上での登録ではなく別途所定用紙による登録が必要である。

(2) “再履修”とは

過去に不合格になった科目を、再度履修することを“再履修”として扱う。

(3) 合格科目の再履修はできない

既に合格（単位取得）した科目を再度履修することはできない。（すなわち一度履修して合格した科目の成績評価は変更できない）

(4) 高学年配当科目の履修はできない

自己の学年よりも高学年に配当されている科目は履修できない。

(5) 履修者指定のある科目に注意

科目によっては、所属学科・クラス・班などによる履修者指定をしている場合がある。また、授業開始前の希望者事前審査や、授業開始時の出席により、受講者指定や人数制限をする科目もある。

(6) 2年次以降の履修申告の際には、さらに、次のことに注意すること。

- ・履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて登録すること。
- ・低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修すること。

(7) 他学部・他大学の科目の履修について

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合についてはWEB上での登録ではなく別途申請が必要となる。詳細は「15. 他学部・他大学の科目の履修」を参照すること。

(8) 副専攻プログラムの履修について

通常の履修登録と併せて、履修希望科目を記した「副専攻プログラム計画書」の提出が必要である。ただし、履修計画書に記したプログラム対象科目と実際に取得したプログラム対象科目が合致していなくても要件が満たされていればプログラム修了を認定する。

4. 卒業と同時に「保育士」資格・「幼稚園教諭一種免許状」を取得することについて

人間科学部児童学科では、卒業と同時に「保育士」「幼稚園教諭一種免許状」を取得することができるが、このためには、それぞれの要件を同時に満たす必要がある。各参照ページを十分に理解し、計画的に単位を修得すること。

1. 「卒業」するための要件

(1) 参照ページ

P. 50～55 —— **教育課程表**

P. 56～66 —— **履修要綱**

(2) 注意事項

「保育士」や「幼稚園教諭一種免許状」の取得には、卒業に必要な単位を修得することが前提となる。卒業するための要件は何よりも重要なので、「教育課程表」「履修要綱」に基づき、単位を修得すること。

2. 「保育士」資格を取得するための要件

(1) 参照ページ

P. 72～76 —— **「保育士」資格の取得について**

(2) 注意事項

人間科学部児童学科で担当している全 259 科目は、「児童福祉法施行規則に基づく履修科目」に該当する。これらを“告示による教科目（系列）”ごとに“当該養成施設における教科の開設状況”として一覧にしたのが、P. 74～76 の表である。

「保育士」資格を取得するためには、卒業するための要件と同時に、この表に基づき、単位を修得すること。

3. 「幼稚園教諭一種免許状」を取得するための要件

(1) 参照ページ

P. 77～79 —— **「幼稚園教諭一種免許状」の取得について**

(2) 注意事項

人間科学部児童学科で担当している全 259 科目の中で、幼稚園教諭免許状の取得に関連した科目は 39 科目で、これらを“免許法施行規則に定める科目区分等”ごとに“対応する本学の開設授業科目”として一覧にしたのが、P. 78～79 の表である。

「幼稚園教諭一種免許状」を取得するためには、卒業するための要件と同時に、この表に基づき、単位を修得すること。

5. その他の資格について

上述の資格、免許状の他に、「教育学概論」「公衆衛生学」「保育原理」の3科目の単位を修得することによって、「社会福祉主事任用資格」（各地方自治体の福祉事務所等で働く者に要求される任用資格）を取得することが可能である。

6. 授業時間について

各時限の授業時間は次のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

7. 公欠について

次の事由により授業を欠席する場合は、公欠として扱う。いずれも、書類を必要とするので、担当事務局に連絡の上、所定の用紙（事務局備え付け）を提出すること。

(1) 学校感染症

学校保健安全法に定める第1・2・3種感染症（インフルエンザ，風疹，百日咳，その他）と診断された場合，原則として7日以内の欠席を認める。ただし，添付書類として医師の診断書を必要とする。

なお，第2種については，登校許可書，治癒証明書でも可とする。

(2) 忌引

1親等以内の親族および配偶者と2親等の血族・姻族を忌引扱いとする。いずれも死亡日より起算し，日曜，祝日も含むものとする。また，往復に要する日数も忌引日数に加算する。

- ・ 父母，配偶者およびその父母 7日
- ・ 祖父母，兄弟姉妹 3日

ただし，生計を一にする配偶者の父母の場合は，7日とする。

(3) その他

上記に該当しないものについては，担当事務局に相談のこと。

8. 休講について

学校行事や担当教員の都合などにより授業を休講とする場合がある。その場合は事前に掲示板等を通して連絡する。

なお，休講の掲示やその他特段に指示がなく，授業開始時間から30分を過ぎても授業が行われない場合は，担当事務局に問い合わせること。

9. ストライキ等により交通機関が運行停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置について

1. 交通機関がストライキ等により運行停止した場合

(1) 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止した場合

次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前6時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前9時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	午前は休講とし，午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時までにスト等による運行停止が解除されない場合	→	全日休講とする

(2) 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止しない場合

J R 東日本の電車その他が，ストライキ等により運行を停止しても，授業は平常どおり行う。

2. 台風による暴風警報が発表された場合

東京地方（23区西部，23区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発表されている場合，次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前6時までに暴風警報が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前6時から午前9時までの間に暴風警報が解除された場合	→	午前は休講とし，午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時以降に暴風警報が解除された場合	→	全日休講とする

なお，暴風警報が発表されていない場合でも，気象状況は時間の経過とともに変化することが想定される。状況に応じて休講の措置をとることもあるので，大学発表の情報を必ず確認すること。

また，授業開始以後に暴風警報が発表された場合は，学内放送等で授業措置の情報を発信する。

3. その他

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合がある。
そのような場合、直ちに大学ホームページおよびポータルサイトへ掲載するので、各自で確認すること。

10. 科目試験について

1. 試験の内容

定期試験は、全学一斉に期間を指定して行う試験で、前期末の「前期末試験」と、学年末の「学年末試験」がある。

また、クォーター開講科目の場合は、クォーター終了時点で「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定している。

なお、担当教員により、これらの指定期間とは別に、授業期間中にこれらの試験に準ずる試験を行う場合がある他、中間試験その他を行うことがある。また、レポート、論文等をもって試験に替える場合もある。

受験に際しては次の事項に留意すること。

- (1) 試験科目、試験の日時および場所は予め掲示する（その際に受験についての注意事項を併せて掲示する）。
- (2) 次の何れかに該当する者は試験を受けることはできない。たとえ受験しても無効とする。
 - a. 科目の履修申告をしていない者
 - b. 学生証を所持しない者
 - c. 試験開始後20分以上遅刻した者
- (3) 受験の際は学生証を必ず机の上に置かなければならない。
- (4) 試験当日学生証の携帯をしていない者は、事務局の証明書自動発行機より「受験（受講）のための証明書」を発行し、机の上に置かなければならない。
- (5) 試験開始後30分以内の退場は許可しない。
- (6) 病気・負傷、大学に向かう途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて担当事務局に提出しなければならない。

2. 定期試験の実施について

人間科学部児童学科の定期試験は、原則として平常の授業時間内で実施する。一部の科目においては、定期試験期間を設定し、次の通り各時限60分を原則とした試験時間を設定している。

※参考：他学部の定期試験

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20	17:40～18:40

3. 試験の際に不正を行った者の取り扱い

本学部学生が、試験（単位互換により、本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合、「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い、「当該クォーター期間内に実施する全ての科目試験の評価を不可（0点）にする」とともに、「10日以上停学または退学」とする。

- (1) 試験には、大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他、担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や、クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし、これらのすべてを「当該クォーター期間内学期に実施する全ての科目試験」として取り扱う。
- (2) 停学の期間は在学年数に算入する。
- (3) 処分の内容は決定後公示する。
- (4) 停学の執行開始は、処分を決定した日の翌日からとする。

注1：下記のような場合は不正行為と断定する。

- (a) 代人に受験させた場合
- (b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合
- (c) 問題配布後で試験開始の合図がある前、および試験終了後に鉛筆などの筆記用具を手に持っている場合
- (d) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を見た認められる場合

- (e) 他人の答案を見たとき認められる場合
- (f) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合
- (g) 言語、動作をもって互いに連絡している場合
- (h) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借している場合
- (i) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為(例えばメモ、ノートを机上においている場合や所持している場合等)を行った場合
- (j) 携帯電話やスマートフォンなどの携帯端末を机の上に置いたり、身につけていたりした場合

注2：不正行為は試験場で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も同様の扱いを受ける。

注3：処分を受けると当該クォーター期間内に実施される科目試験の全ての科目が不合格となるので、ほぼ確実に1年以上の卒業延期となる。

注4：第2クォーター科目または前期セメスター科目の試験の不正については、その科目および、第2クォーター科目試験すべて、および、前期セメスター科目試験すべての成績が不可になる。

第4クォーター科目または後期セメスター科目の試験の不正については、その科目および、第4クォーター科目試験すべて、および、後期セメスター科目試験すべての成績が不可になる。

11. 成績について

1. 成績の発表

- (1) 科目試験の結果は、8月下旬(クォーター開講を含む前期配当科目)と3月下旬(クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目)の2回発表する。
- (2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとする。
- (3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は、3月に本学内に掲示する。

2. 成績の評価

- (1) 評価の対象
出席時間数が学則に定められた開講時間数の3分の2に満たない者は、履修登録を行っていても成績評価の対象とならないので注意すること。
- (2) 各授業科目の成績評価
各授業科目についての成績評価を、秀(100点～90点)、優(89点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点以下)の5段階に分け、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とする。当初の評価で合格に達していない場合でも、授業への出席状況や授業内容の理解度などから追加の学習によって合格に達すると期待される学生には再教育の期間を設け、成績評価を「保留」することがある。なお、他大学で修得した科目を本学の科目として認めたときの評価は段階別に分けず、「認定」との表記になる(例えば、認定留学で修得した単位など)
- (3) 個人の成績の総合評価
個人の学業成績の総合評価は、f-GPA(ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ)方式により算定される。計算式は以下のとおりで、算出された評定値の大きい順に順位がつけられる。

$$\frac{\text{(履修した各科目のGP} \times \text{単位数)の合計}}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

※GP = (科目の得点 - 50) / 10 ただし、科目の得点が60点未満の場合、GPは0とする。

- (a) 評価値算出対象となる科目は「卒業要件対象科目」とする。(特別履修などによる卒業要件非加算科目は対象外)
- (b) 評定値算出には不合格科目も対象とする。

- (c) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のG Pのみ最新評価結果に替えて算出する。
- (d) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母(履修単位数)に含めない。
- (e) 評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。
- (F) 評価が「認定」の科目は、評定値算出の対象にならない。

12. 学年末の指導

(1) 単位修得状況による指導

1年次前期終了時に修得単位が10単位未満の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また、**1年次終了時に修得単位が20単位未満の者**に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。

なお、いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含めない。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

(2) f-GPAによる指導

各年次終了時に、f-GPAが0.6未満の者には、退学勧告を行う。併せて、f-GPAの低い成績不振の者には個別面談を実施する。

13. 卒業研究着手の条件について

4年生に履修する卒業研究に着手するためには、3年以上在学し、100単位以上を修得していることが必要である。この条件に満たない場合は、3年以上在学していても、卒業研究に着手することはできないので、卒業は延期される。

注1：「卒業研究」は学年始めの4月からはじまる。3年終了時までには休学期間があると、それが1年未満であっても、着手は次の学年始めの4月まで延期されることになる。

注2：前期末で在学期間を含む卒業研究着手条件を全て満たした場合に限り、「卒業延期者の後期卒業研究着手」を実質的に認める。その場合、次年度4年前期に6単位を修得することができる。

14. 修業年限と卒業延期について

1. 修業年限

本学を卒業するためには4年以上在学しなければならない。4年を越え在学し、なお卒業できない場合でも在学年数は8年を超えることはできない。ただし、休学中の期間は在学期間に加えない。

2. 卒業延期

4年を越え在学する場合は、4月30日までに定められた所定の学費を納入しなければならない。履修届出については前年度までの方法と同じである。

なお、卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については2カ月毎に審査が行われて卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については2カ月毎の月末に卒業資格が認定される。

15. 他学部・他大学の科目の履修について

1. 特別履修

科目の5区分に属さない他学部（理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部・環境学部・メディア情報学部・都

市生活学部)・他大学(単位互換提携をしている大学に限る)の科目は、ある一定の条件を満たさなければ履修することはできない。ただし、一定の条件を満たす場合は、「特別履修科目」として単位が認定され、「自由選択」の単位内に含めることができる。

2. 他学部の科目の特別履修

他学部で開講される科目の履修については以下のとおりである。

(1) 履修の手続き

履修する場合は、「特別履修申告書」(各自ポータルサイトよりダウンロード)に必要事項を記入の上、第1週目の授業に出席し科目担当者の認印を受けてから、事務局に提出すること。履修にあたっては、事務局に備え付けの該当学部「学修要覧」、「教授要目」、「授業時間表」を参考にすること。

(2) 履修の制限

- ・履修の可否は、他学部内の他学科で開講される科目の取り扱いに準ずる。
- ・所属学年よりも上の学年の配当科目は履修できない。
- ・履修順序の指定がある科目で、前提となる科目を履修していない場合は、当該科目を履修することはできない。
- ・履修希望者数が多く、履修人数を制限する場合は、開講学部の学生が優先される。

(3) 試験日程および成績評価

履修科目の試験日程および成績評価は、開講学部の日程および基準による。

3. 他大学の科目の特別履修

東京理工系4大学単位互換

東京理工系4大学の交流協定に基づき、工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学で開講される科目のうち、単位互換可能科目を所属学科の許可を得て履修することができる。修得した科目は学則で定める最大の単位数までを卒業要件に算入できる。ただし、本学において開講している科目と同一内容の科目については、履修を許可できない。単位互換が可能な科目と履修手続は事務局で確認すること。他大学での受講については、クラス担任の指導・助言を受けること。

履修モデル

幼稚園教諭1種免許・保育士資格取得の場合

141単位

1年		2年		3年		4年	
前期 23単位	後期 19単位	前期 24単位	後期 20単位	前期 20単位	後期 20単位	前期 6単位	後期 7単位
日本文化の伝承 日本国憲法 情報処理演習(1) 情報処理演習(2)		日本文学		公衆衛生学 国際化と異文化理解		教養科目	
C/S(1) C/S(2) R&W(1) R&W(2)						外国語科目	
人間と健康 健康と運動(1) 健康と運動(2)						体育科目	
保育原理		教育学概論		教育原理		子ども家庭支援の心理学	
子ども家庭福祉				社会福祉		子ども理解の理論と方法	
発達心理学(1)		社会的養護(1)		教育心理学		保育者論	
子どもの食と栄養		子どもの保健と健康		子どもの安全と健康			
		子ども家庭支援論		保育の計画と評価		社会的養護(2)	
乳児保育(1)		保育内容総論		特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援		乳児保育(2) 保育内容健康指導法	
		保育内容人間関係指導法		保育内容言葉指導法		保育内容環境指導法	
音楽実技(1)		保育内容の理解と方法 (音楽表現)		保育内容表現指導法		子育て支援	
保育内容の理解と方法 (言語表現)		保育内容の理解と方法 (造形表現)		保育内容の理解と方法 (身体表現)		保育実習(1) (保育所・施設) 保育実習指導(1) (保育所) 保育実習指導(1) (施設)	
		食農文化と子育て(1)				保育実習(2) 保育実習指導(2) (保育所) —または— 保育実習(3) 保育実習指導(3) (施設)	
						保育・教職実践演習(幼稚園)	
子どもと人間関係 子どもと環境		子どもと言葉 教育社会学		子どもの造形表現指導法		カリキュラム論	
				幼児教育方法論			
		幼稚園教育実習(1)				幼稚園教育実習(2)	
		幼稚園教育実習指導(1)		教育相談		幼稚園教育実習指導(2)	
DSリテラシー(1) DSリテラシー(2) 文系のための統計基礎 児童学入門 基礎ゼミ		SD PBL(2) 海外研修		SD PBL(3)		子育て支援演習	
						特別研究 卒業研究	
凡例		必修科目		保育士 必修または選択必修		幼稚園教諭 必修または選択必修	
				その他学年配当のない科目		インターンシップ(1) インターンシップ(2) ボランティア(1) ボランティア(2)	

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合があるため、別冊の時間割を確認すること。

保育士資格取得の場合

132 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期 23 単位	後期 19 単位	前期 24 単位	後期 19 単位	前期 18 単位	後期 15 単位	前期 6 単位	後期 7 単位
情報処理演習(1)		日本文化の伝承	日本文学	公衆衛生学		教養科目	
情報処理演習(2)		日本国憲法		国際化と異文化理解			
外国語科目							
C/S(1)		C/S(2)					
R&W(1)		R&W(2)					
体育科目							
人間と健康		健康と運動(2)					
健康と運動(1)							
専門科目							
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学				
子ども家庭福祉			社会福祉	子ども理解の理論と方法			
	発達心理学(1)	社会的養護(1)	教育心理学	保育者論			
	子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	子どもの安全と健康				
		子ども家庭支援論	保育の計画と評価	社会的養護(2)			
	乳児保育(1)	保育内容総論	特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援	乳児保育(2)	保育内容健康指導法		
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援		
	音楽実技(1)	保育内容の理解と方法 (音楽表現)	保育内容表現指導法				
保育内容の理解と方法 (言語表現)	保育内容の理解と方法 (造形表現)	保育内容の理解と方法 (身体表現)		保育実習(1) (保育所・施設)	保育実習(2) 保育実習指導(2) (保育所) または 保育実習(3) 保育実習指導(3) (施設)		保育・教職実践演習(幼稚園)
		食農文化と子育て(1)	食農文化と子育て(2)	保育実習指導(1) (保育所)			
				保育実習指導(1) (施設)			
子どもと人間関係		子どもと言葉		子どもの造形表現指導法			
子どもと環境		教育社会学					
				幼児教育方法論			
卒業研究							
DS リテラシー(1)		SD PBL(2)		海外研修		SD PBL(3)	
DS リテラシー(2)		子育て支援演習					
文系のための統計基礎							
児童学入門							
基礎ゼミ		特別研究		卒業研究			
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合があるため、別冊の時間割を確認すること。

幼稚園教諭 1種免許取得の場合

131 単位

1 年		2 年		3 年		4 年			
前期 23 単位	後期 17 単位	前期 23 単位	後期 20 単位	前期 16 単位	後期 19 単位	前期 5 単位	後期 7 単位		
日本文化の伝承		日本文学		公衆衛生学		国際化と異文化理解		教養科目	
情報処理演習(1)		情報処理演習(2)		情報処理演習(3)					
C/S(1)		C/S(2)		R&W(1)		R&W(2)		外国語科目	
人間と健康		健康と運動(1)		健康と運動(2)				体育科目	
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学	子ども理解の理論と方法	保育者論			専門科目	
子ども家庭福祉	発達心理学(1)	子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	教育心理学	保育内容健康指導法				
	子どもの安全と健康	子どもの食と栄養	子どもの安全と健康	保育の計画と評価	保育内容健康指導法				
	保育内容総論	保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援				
	音楽実技(1)	保育内容の理解と方法(音楽表現)	保育内容表現指導法	保育内容環境指導法	子育て支援				
保育内容の理解と方法(言語表現)	保育内容の理解と方法(造形表現)	保育内容の理解と方法(身体表現)	音楽実技(2)					保育・教職実践演習(幼稚園)	
子どもと人間関係	子どもと言葉	子どもの造形表現指導法	カリキュラム論	臨床心理学					
子どもと環境	教育社会学	子どもの身体表現指導法							
	発達心理学(2)	子どもの音楽表現指導法							
	造形	幼児教育方法論							
		幼稚園教育実習(1)		幼稚園教育実習(2)					
		幼稚園教育実習指導(1)	教育相談	幼稚園教育実習指導(2)					
DS リテラシー(1)	SD PBL(2)	海外研修	SD PBL(3)	子育て支援演習					
DS リテラシー(2)									
文系のための統計基礎									
児童学入門									
基礎ゼミ									
			特別研究		卒業研究				
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目		インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合がある
るので、別冊の時間割を確認すること。

資格・免許取得せずの場合

134 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期 27 単位	後期 16 単位	前期 25 単位	後期 20 単位	前期 14 単位	後期 19 単位	前期 7 単位	後期 5 単位
国際関係論 (1)	国際関係論 (2)	日本文学		生活とメディア	公衆衛生学	教養科目	
心理学概論	日本国憲法				国際化と異文化理解		
情報処理演習 (1)	情報処理演習 (2)	情報処理演習 (3)	情報処理演習 (4)	経済学 (1)	経済学 (2)	社会学 (1)	社会学 (2)
外国語科目							
C/S (1)	C/S (2)						
R&W (1)	R&W (2)						
体育科目							
人間と健康							
健康と運動 (1)	健康と運動 (2)						
専門科目							
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学				
子ども家庭福祉			社会福祉	子どもの理解の理論と方法			
	発達心理学 (1)	社会的養護 (1)	教育心理学		保育者論		
	子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	子どもの安全と健康				
		子ども家庭支援論	保育の計画と評価				
	乳児保育 (1)	保育内容総論	特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援				
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援		
			保育内容表現指導法				
保育内容の理解と方法 (言語表現)							
		食農文化と子育て (1)	食農文化と子育て (2)				

子どもと人間関係	子どもと言葉	子どもの造形表現指導法	子どもと昔話	臨床心理学			
子どもと環境	教育社会学						
	発達心理学 (2)						
		幼児教育方法論					

DS リテラシー(1)		SD PBL (2)	海外研修		SD PBL (3)		
DS リテラシー(2)							
文系のための統計基礎							
児童学入門							
基礎ゼミ				特別研究	卒業研究		
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合があるため、別冊の時間割を確認すること。

履修系統図

人間科学部 児童学科 履修系統図

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。
 2. 「体験プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション能力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
 3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
 4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得し

DP	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
DP	心理学概論 情報処理演習(1) 人間と健康 健康と運動(1) 保育原理 子ども家庭福祉 児童文化 手話 児童学入門 データサイエンスリテラシー(1) データサイエンスリテラシー(2) 文系のための統計基礎	日本文化の伝承 情報処理演習(2) 健康と運動(2) 発達心理学(1) 子どもの食と栄養 乳児保育(1) 教育学概論 日本国憲法 音楽実技(1) 保育内容の理解と方法(造形表現) Communication Skills(2) Reading and Writing(2)	生活とメディア 教育原理 社会的養護(1) 子育て支援演習 保育内容の理解と方法(音楽表現) 造形 保育内容の理解と方法(身体表現) 食農文化と子育て(1) 教育社会学 子どもの保体と健康 子ども家庭支援論 保育内容総論 保育内容人間関係指導法 発達心理学(2) 子どもと言葉 SD PBL(2)	社会福祉 音楽実技(2) 幼稚園教育実習(1) 幼稚園教育実習指導(1) 食農文化と子育て(2) 教育心理学 子ども家庭支援の心理学 保育の計画と評価 子どもの安全と健康 保育内容言葉指導法 保育内容表現指導法 特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援 海外研修	保育実習指導(保育所) 保育実習指導(1)(施設) 保育実習(1)(保育所・施設) 保育内容環境指導法 乳児保育(2) 子どもの造形表現指導法 子どもの身体表現指導法 子どもの音楽表現指導法 幼児教育方法論 子ども理解の理論と方法 教育相談 特別研究	国際化と異文化理解 公衆衛生学 子どもと音楽 幼稚園教育実習指導(2) 幼稚園教育実習(2) 社会的養護(2) 保育者論 カリキュラム論 保育内容健康指導法 子育て支援 特別研究 SD PBL(3)	保育実習(2)(保育所) 保育実習指導(2)(保育所) 保育実習(3)(施設) 保育実習指導(3)(施設) 臨床心理学 卒業研究	保育・教職実践演習(幼稚園) 卒業研究 インターンシップ(1) インターンシップ(2) ボランティア(1) ボランティア(2)
DP1								
DP2								
DP3								
DP4	Communication Skills(1) Reading and Writing(1)							

「保育士」「幼稚園教諭一種免許状」に関する「実習」について

本学人間科学部児童学科は、「保育士」資格と「幼稚園教諭一種免許状」を取得することができる。詳細は次頁以降を参照すること。

ここでは、「保育士」「幼稚園教諭一種免許状」に関して、それぞれで行う「実習」について一覧にまとめた。実習そのものと、その準備のための授業科目があるので注意すること。

	保 育 士				幼稚園教諭一種免許状	
	○必修として 「保育所」「施設」の 両方の実習を行う		△選択必修として 「保育所」または「施設」の どちらかの実習を行う。		○必修として 「(1)[通称：観察実習]」と 「(2)[通称：責任実習]」の 両方の実習を行う	
実 習 授業科目	保育実習(1)(保育所・施設)		保育実習(2)(保育所)	保育実習(3)(施設)	幼稚園教育実習(1)	幼稚園教育実習(2)
実習準備 授業科目	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)		保育実習指導(2)(保育所)	保育実習指導(3)(施設)	幼稚園教育実習指導(1)	幼稚園教育実習指導(2)
実習先	保育所	施設	保育所	施設	幼稚園 (観察実習)	幼稚園 (責任実習)
1年						
2年	9月実習費納入				4月実習費納入	
					後期授業科目 2月頃：実習	
3年	前期授業科目 6月頃：実習					
	8月頃：実習					後期授業科目 2月頃：実習
4年			前期授業科目 6月頃：実習	前期授業科目		
				8月頃：実習		

「保育士」資格の取得について

本学人間科学部児童学科は、「指定保育士養成施設」として認定されている。これにより「保育士」資格を取得するには、卒業要件を充足し、かつ児童福祉法および同施行規則の定めるところによる別表の専門科目の中から、所定の単位を修得しなければならない。学則第20条の3第2項で定める履修方法等については以下の通りである。

1. 資格の種類

保育士

2. 履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上、履修登録時に、資格取得に必要な科目を登録すること。

なお、保育実習には、別途「保育実習費」として¥70,000を、2年次後期に徴収する。詳細は、保育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した保育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。

3. 履修制限について

保育士を養成する社会的責任から、次の条件を設けて履修者を制限することがある。

- (1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合
- (2) 授業等への出席状況が著しく悪い者
- (3) その他、保育士を志す者としてふさわしくない者

4. 「保育実習」について

保育士資格取得のためには、次の実習に参加して、単位を修得しなければならない。

① 実習の種別と期間

授業科目と種別		期 間			実 習 指 導 科 目
保育実習(1)(保育所・施設)	保育所	第3学年	6月頃	12日間	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)
	施設	第3学年	8月頃	12日間	
保育実習(2)(保育所)	保育所	第4学年	6月頃	12日間	保育実習指導(2)(保育所)
または					
保育実習(3)(施設)	施設	第4学年	8月頃	12日間	保育実習指導(3)(施設)

※実習期間の「12日間」については、実習先に実習時間(90時間)を満たすこととして依頼しており、各施設において調整される。

②実習の基準

実習に参加するためには、以下の専門科目の単位を修得するか、履修中であることが必要である。

教科目区分	修得科目または単位数
保育の本質・目的に関する科目	4科目 8単位以上
保育の対象の理解に関する科目	3科目 6単位以上
保育の内容・方法に関する科目	8科目 13単位以上

別表 児童福祉法施行規則に基づく履修科目

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備 考		
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単 位 数				授業時間数	
						必修	選択	計			
教 養 科 目	外国語, 体育 以外の科目	不問	6以上	日本文学	講義		2	2	30	}	
				日本国憲法	講義		2	2	30		
				心理学概論(a)	講義		1	1	30		
				心理学概論(b)	講義		1	1	30		
				国際化と異文化理解(a)	講義		1	1	30		
				国際化と異文化理解(b)	講義		1	1	30		
				生活とメディア	講義		2	2	30		必修科目を含め
				公衆衛生学	講義		2	2	30		6単位以上修得
				情報処理演習(1)	演習	1		1	30		すること
				情報処理演習(2)	演習	1		1	30		}
				情報処理演習(3)	演習		1	1	30		
	情報処理演習(4)	演習		1	1	30					
	外国語	演習	2以上	Communication Skills(1)	演習	1		1	30		
				Communication Skills(2)	演習	1		1	30		
				Reading and Writing(1)	演習	1		1	30		
				Reading and Writing(2)	演習	1		1	30		
	体育	講義	1	人間と健康	講義	2		2	30		
実技		1	健康と運動(1)	実技	1		1	30			
			健康と運動(2)	実技	1		1	30			
合 計		10単位以上				10	14	24			
				24 単位 (≥10単位)							

「保育士」資格の取得について

告示別表第1による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等						備 考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単 位 数			授業時間数	
						必修	選択	計		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	30	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2	30	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2		2	30	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	30	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		2	30	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護(1)	講義	2		2	30	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	30	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	発達心理学(1)	講義	2		2	30	
				教育心理学	講義	2		2	30	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30	
	子どもの理解と援助	演習	1	子ども理解の理論と方法	演習	2		2	30	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健と健康	講義	2		2	30	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	30	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		2	30	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		2	30	
	保育内容演習	演習	5	保育内容健康指導法	演習	2		2	30	
				保育内容人間関係指導法	演習	2		2	30	
				保育内容環境指導法	演習	2		2	30	
				保育内容言葉指導法	演習	2		2	30	
				保育内容表現指導法	演習	2		2	30	
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法(音楽表現)	演習	1		1	30	
				保育内容の理解と方法(造形表現)	演習	1		1	30	
				保育内容の理解と方法(身体表現)	演習	1		1	30	
				保育内容の理解と方法(言語表現)	演習	1		1	30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育(1)	講義	2		2	30	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育(2)	演習	2		2	30	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの安全と健康	演習	1		1	30	
	障害児保育	演習	2	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	演習	2		2	30	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護(2)	演習	1		1	15		
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2		2	30		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習(1)(保育所・施設)	実習	4		4	180	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導(1)(保育所)	演習	1		1	20	
				保育実習指導(1)(施設)	演習	1		1	20	
総合演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		2	30		
合 計		5 1 単位		62 単位 (≥51 単位)						

「保育士」資格の取得について

告示別表第2による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考	
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数			授業時間数	
						必修	選択	計		
保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	15	単 位 以 上	教育学概論	講義		2	2	30	必修科目を含め 22単位以上修得 すること
				児童学入門	講義	2		2	30	
				発達心理学(2)	演習		2	2	30	
				臨床心理学	演習		2	2	30	
				子育て支援演習	演習	2		2	30	
				食農文化と子育て(1)	演習	2		2	30	
				食農文化と子育て(2)	演習		2	2	30	
				基礎ゼミ	演習	2		2	30	
				特別研究	演習	4		4	60	
				卒業研究	演習	6		6	180	
				児童文化	演習		2	2	30	
				子どもと昔話	講義		2	2	30	
				子どもと言葉	演習		2	2	30	
				子どもと人間関係	演習		2	2	30	
				子どもと環境	演習		2	2	30	
				音楽実技(1)	演習	2		2	30	
				音楽実技(2)	演習		2	2	30	
				造形	演習		2	2	30	
				手話	演習		2	2	30	
				保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習(2)(保育所)	実習	
保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導(2)(保育所)		演習		1	1	15	
保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習(3)(施設)		実習		2	2	90	
保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導(3)(施設)		演習		1	1	15	
合計		18単位以上					20	30	50	
				50単位 (≧18単位)						

<p>保育士資格取得科目ではないが、 学校独自の科目として開設されて いる教科目</p>	<p>2020年の教育課程表に掲載されている全科目のうち、告示(別表第1・別表第2)による教科目(P.74~76)に掲載されていない全ての科目が該当する。</p>
--	---

「幼稚園教諭一種免許状」の取得について

本学人間科学部児童学科では、幼稚園教諭免許状の取得に関連した幼児教育に関する科目を開講している。この免許状を希望する場合は、所定の科目を修めることにより幼稚園教諭一種免許状を取得することが可能である。

1. 免許状の種類

幼稚園教諭一種免許状

2. 履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上、履修登録時に、免許取得に必要な科目を登録すること。

なお、教育実習には、別途「教育実習費」として¥50,000を、2年次前期に徴収する。詳細は、教育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した教育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。

3. 履修制限について

幼稚園教諭を養成する社会的責任から、次の条件を設けて履修者を制限することがある。

- (1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合
- (2) 授業等への出席状況が著しく悪い者
- (3) その他、幼稚園教諭を志す者としてふさわしくない者

※保育実習の基準についても、あらかじめ確認しておくこと。

4. 幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、次の要件を充足しなければならない。

(1) 基礎資格

学士の学位を有すること

(2) 大学において修得することを必要とする最低単位数

①免許法施行規則に定める科目区分において、最低修得単位数として、以下を充たすこと

教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法	・教育の基礎的理解に関する科目 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・教育実践に関する科目 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目	35単位
領域に関する専門的事項	健康、人間関係、環境、言葉、表現	12単位

②「教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目」として、日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、情報機器の操作2単位を修得すること

教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目	日本国憲法	2単位
	体育	2単位
	外国語コミュニケーション	2単位
	情報機器の操作	2単位

上表の単位要件を充たすために、本学人間科学部児童学科では、それぞれの科目区分に対応する授業科目を、次頁の通り開設している。

この表により単位を修得することで、幼稚園教諭一種免許状の単位要件を充たすことができる。

教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			備考
科目	各科目に含める必要事項	単 位 数 最 低 修 得 数	授業科目	単位数		
				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会学	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達心理学(1) 教育心理学	2 2		
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	2		
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	幼児教育方法論	2		
	・幼児理解の理論及び方法		子ども理解の理論と方法	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習	5	幼稚園教育実習(1)	2		
			幼稚園教育実習指導(1)	1		
			幼稚園教育実習(2)	2		
			幼稚園教育実習指導(2)	1		
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	2		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	14	保育内容健康指導法	2		
			保育内容人間関係指導法	2		
			保育内容言葉指導法	2		
			保育内容環境指導法	2		
			保育内容表現指導法	2		
			子どもの音楽表現指導法		2	これら3科目より 1科目選択必修
			子どもの造形表現指導法		2	
			子どもの身体表現指導法		2	
保育内容総論	2					

履修上の参考MEMO

「免許法施行規則に定める科目区分等」
として必要な単位数合計

35

本学で開設している科目

必修 30
選択 6

領域に関する専門的事項

免許法施行規則に定める科目区分	単 位 数	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
健 康	1 2	子どもの保健と健康	2		
人間関係		子どもと人間関係	2		
環 境		子どもと環境	2		
言 葉		子どもと言葉	2		
表 現		保育内容の理解と方法（音楽表現）	1		
		保育内容の理解と方法（造形表現）	1		
		保育内容の理解と方法（身体表現）	1		
		保育内容の理解と方法（言語表現）	1		
		1 2	12	0	

教育職員免許法施行規則第 66 条 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単 位 数	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体 育	2	健康と運動(1)	1		
		健康と運動(2)	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication Skills(1)	1		
		Communication Skills(2)	1		
情報機器の操作	2	情報処理演習(1)	1		
		情報処理演習(2)	1		
		8	8		

東京都市大学留学プログラム (TAP・TUCP)

本学の留学プログラムには、「東京都市大学オーストラリアプログラム (以下、TAP)」と「東京都市大学とカンタベリー大学との留学プログラム (以下、TUCP)」の2つがあります。これらのプログラムは、本学が独自に開発した留学プログラムです。

2015年より始まったTAPは、西豪州パースの大学に16週にわたり留学します。参加条件を問いませんので、英語に自信が無い場合でも安心して留学することが可能です。1年次には、準備教育として、前期後期合わせて100日間の英会話レッスンもあります。

TUCPは、ニュージーランド・クライストチャーチ市のカンタベリー大学に16週にわたり留学します。参加条件としてTOEIC®600点以上が求められますが、カンタベリー大学の学生と共に現地の科目を受講できることがこのプログラムの特徴です。



◆ プログラムの概要

現在は以下の2プログラムが用意されています。英語レベルに合わせて参加するプログラムを決定します。

	 東京都市大学 オーストラリアプログラム	 TUCP カンタベリー大学 留学プログラム																																
概要	TAP 東京都市大学オーストラリアプログラム 初体験でも安心してチャレンジできる留学システム。 国内での準備教育とオーストラリア留学の2年間にわたる大規模プログラム。	TUCP カンタベリー大学留学プログラム 現地学生と共に専門科目を学ぶ上級者向けプログラム																																
募集定員	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">サイクル A</td> <td>環境学部</td> <td>環境創生学科</td> <td>30名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境経営システム学科</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">メディア情報学部</td> <td>社会メディア学科</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>情報システム学科</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>都市生活学部</td> <td>都市生活学科</td> <td>90名</td> </tr> <tr> <td>人間科学部</td> <td>児童学科</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">サイクル B</td> <td>理工学部</td> <td>全7学科</td> <td>140名</td> </tr> <tr> <td>建築都市デザイン学部</td> <td>全2学科</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>全2学科</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>サイクル A : 221名 サイクル B : 250名</td> <td>471名※</td> </tr> </table> ※学部学科によりサイクル(留学の時期)を指定。 募集人員を超えた場合は選考あり。※学科によらない調整人数を含む	サイクル A	環境学部	環境創生学科	30名		環境経営システム学科	24名	メディア情報学部	社会メディア学科	35名	情報システム学科	12名	都市生活学部	都市生活学科	90名	人間科学部	児童学科	4名	サイクル B	理工学部	全7学科	140名	建築都市デザイン学部	全2学科	40名	情報工学部	全2学科	70名	合計		サイクル A : 221名 サイクル B : 250名	471名※	45名 学部2年生以上及び大学院生にも開かれたプログラムです
サイクル A	環境学部		環境創生学科	30名																														
			環境経営システム学科	24名																														
	メディア情報学部		社会メディア学科	35名																														
		情報システム学科	12名																															
都市生活学部	都市生活学科	90名																																
人間科学部	児童学科	4名																																
サイクル B	理工学部	全7学科	140名																															
	建築都市デザイン学部	全2学科	40名																															
	情報工学部	全2学科	70名																															
合計		サイクル A : 221名 サイクル B : 250名	471名※																															
英語要件	特になし	TOEIC®600点以上																																
語学準備講座	参加必須(1年次 前後期 100日間)	参加可能																																
プログラム期間	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">サイクル A</td> <td>語学準備講座</td> <td>2020年5~7月, 9~12月</td> </tr> <tr> <td>豪州留学</td> <td>2021年2~5月</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">サイクル B</td> <td>語学準備講座</td> <td>2020年5~7月, 9~12月</td> </tr> <tr> <td>豪州留学</td> <td>2021年8~11月</td> </tr> </table>	サイクル A	語学準備講座	2020年5~7月, 9~12月	豪州留学	2021年2~5月	サイクル B	語学準備講座	2020年5~7月, 9~12月	豪州留学	2021年8~11月	ニュージーランド留学: 2021年8~11月																						
サイクル A	語学準備講座		2020年5~7月, 9~12月																															
	豪州留学	2021年2~5月																																
サイクル B	語学準備講座	2020年5~7月, 9~12月																																
	豪州留学	2021年8~11月																																
派遣先大学	エディスコワン大学/マードック大学 [西オーストラリア州 パース]	カンタベリー大学 [ニュージーランド クライストチャーチ]																																
学修内容と修得単位	英語科目/教養科目等 計12単位 詳細は別表1参照	英語科目/専門基礎科目等 計12単位 詳細は別表2参照																																

◆ 留学中の学修 ① TAP：東京都市大学オーストラリアプログラム

4 か月間の留学において、1st クォーターは、大学付設の語学学校（能力別クラス）で英語を学びます。2nd クォーターは国際人として必要な教養を身につけるために、教養の科目を英語で学びます。現地における科目と、本学における認定科目については以下のとおりですが、詳細は学科の TAP 担当教員及び教務委員に確認してください。

(別表 1-1) 単位認定表 [TAP]：世田谷キャンパス（理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部）

派遣先	期	派遣先大学での開講科目名 ※1	単位数	本学での認定科目名	単位数	理工学部 認定科目区分	建築都市 デザイン学部 認定科目区分	情報工学部 認定科目区分
エディ スコー ワン 大学 (ECU)	前半	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4 単位を、 外国語必修単位 CS(1), CS(2), RW(1a), RW(1b), RW(2a), RW(2b) <1 年次配当>の 4 単位で認定 (上記科目の履修は不可)		
				Communication Skills(2)	1			
				Reading and Writing(1a)	0.5			
				Reading and Writing(1b)	0.5			
				Reading and Writing(2a)	0.5			
	Reading and Writing(2b)	0.5						
Improving English	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目		
後半	Collaborative Design	2	※2	2	理工学基礎科目・選択	学部基礎科目・選択	情報工学基礎科目・選択	
	Social, Cultural, and Media Studies	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	
	Introductory Applied Mathematics	2	※2	2	理工学基礎科目・選択	学部基礎科目・選択	情報工学基礎科目・選択	
マード ック 大学 (MU)	前半	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4 単位を、 外国語必修単位 CS(1), CS(2), RW(1a), RW(1b), RW(2a), RW(2b) <1 年次配当>の 4 単位で認定 (上記科目の履修は不可)		
				Communication Skills(2)	1			
				Reading and Writing(1a)	0.5			
				Reading and Writing(1b)	0.5			
				Reading and Writing(2a)	0.5			
	Reading and Writing(2b)	0.5						
	Improving English	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	
	後半	Australia and Asia	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目
Using Web Data		2	※2	2	理工学基礎科目・選択	学部基礎科目・選択	情報工学基礎科目・選択	
Sustainable Urban Design		2	※2	2	理工学基礎科目・選択	学部基礎科目・選択	情報工学基礎科目・選択	

※1 海外大学での開講科目（名）は、変更となる場合がある。

※2 学則第 43 条に則り、海外大学で単位を修得した科目名称のまま、本学で単位を認定する。

(別表 1-2) 単位認定表 [TAP]：横浜キャンパス（環境学部・メディア情報学部）

派遣先	期	派遣先大学での開講科目名 ※1	単位数	本学での認定科目名	単位数	環境学部 認定科目区分	メディア情報学部 認定科目区分
エディ スコー ワン 大学 (ECU)	前半	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4 単位を、 外国語必修単位 CS(1), CS(2), RW(1a), RW(1b), RW(2a), RW(2b) <1 年次配当>の 4 単位で認定 (上記科目の履修は不可)	
				Communication Skills(2)	1		
				Reading and Writing(1a)	0.5		
				Reading and Writing(1b)	0.5		
				Reading and Writing(2a)	0.5		
	Reading and Writing(2b)	0.5					
Improving English	2	※2	2	教養科目	教養科目		
後半	Collaborative Design	2	※2	2	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	
	Social, Cultural, and Media Studies	2	※2	2	教養科目	専門基礎科目・選択	
	Urban Movement and Analysis	2	※2	2	専門基礎科目・選択	教養科目	
マード ック 大学 (MU)	前半	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4 単位を、 外国語必修単位 CS(1), CS(2), RW(1a), RW(1b), RW(2a), RW(2b) <1 年次配当>の 4 単位で認定 (上記科目の履修は不可)	
				Communication Skills(2)	1		
				Reading and Writing(1a)	0.5		
				Reading and Writing(1b)	0.5		
				Reading and Writing(2a)	0.5		
	Reading and Writing(2b)	0.5					
	Improving English	2	※2	2	教養科目	教養科目	
	後半	Australia and Asia	2	※2	2	教養科目	教養科目
Digital Storytelling		2	※2	2	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	
Sustainable Urban Design		2	※2	2	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	

※1 海外大学での開講科目（名）は、変更となる場合がある。

※2 学則第 43 条に則り、海外大学で単位を修得した科目名称のまま、本学で単位を認定する。

別表 1-3) 単位認定表 [TAP] : 等々力キャンパス (都市生活学部・人間科学部)

派遣先	期	派遣先大学での開講科目名 ※1	単位数	本学での認定科目名	単位数	都市生活学部 認定科目区分	人間科学部 認定科目区分
エディ スコ ワ ン 大 学 (ECU)	前半	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4 単位を, 外国語必修単位 CS(1), CS(2), RW(1), RW(2) <1 年次配当>の 4 単位で認定 (上記科目の履修は不可)	
				Communication Skills(2)	1		
				Reading and Writing(1)	1		
				Reading and Writing(2)	1		
	後半	Improving English	2	※2	2	教養科目	教養科目
	Collaborative Design	2	※2	2	教養科目	教養科目	
Social, Cultural, and Media Studies	2	※2	2	専門基礎科目・選択必修	教養科目		
Urban Movement and Analysis	2	※2	2	専門科目・選択	教養科目		
マード ック 大 学 (MU)	前半	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4 単位を, 外国語必修単位 CS(1), CS(2), RW(1), RW(2) <1 年次配当>の 4 単位で認定 (上記科目の履修は不可)	
				Communication Skills(2)	1		
				Reading and Writing(1)	1		
				Reading and Writing(2)	1		
	後半	Improving English	2	※2	2	教養科目	教養科目
	Australia and Asia	2	※2	2	教養科目	教養科目	
Digital Storytelling	2	※2	2	専門科目・選択	教養科目		
Sustainable Urban Design	2	※2	2	専門基礎科目・選択必修	教養科目		

※1 海外大学での開講科目 (名) は、変更となる場合がある。
 ※2 学則第 43 条に則り、海外大学で単位を修得した科目名称のまま、本学で単位を認定する。

◆ 留学中の学修 ② TUCP : 東京都市大学 & カンタベリー大学留学プログラム

最初の 4 週間は大学付設の語学学校で集中的に英語を学び、その後カンタベリー大学の正規学生とともに、専門基礎科目等の科目を学びます。現地における開講予定科目と、本学における認定科目については以下のとおりですが、詳細は学科の TAP 担当教員及び教務委員に確認してください。

(別表 2-1) 単位認定表 [TUCP] : 世田谷キャンパス (理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部)

派遣先	派遣先大学での開講科目名 ※1	単位数	本学での認定科目名 ※2	単位数	理工学部 認定科目区分	建築都市 デザイン学部 認定 科目区分	情報工学部 認定科目区分	
カンタ ベ リー 大 学 (UC)	Improving English Intensive	4	Improving English Intensive(1)	1	外国語必修単位の 4 単位で認定 ★1 ★2 ★3 ※ 英語の必修科目を修得済みの場合は、 外国語科目・選択で認定			
			Improving English Intensive(2)	1				
			Improving English Intensive(3)	1				
			Improving English Intensive(4)	1				
	TUCP Specialist Course in Engineering	4	※3	4	専門科目・選択	専門科目・選択	情報工学基盤科目・選択	
	以下の A 群及び B 群から 1 科目ずつ (計 2 科目) を選択する							
	A	Strengthening communities through Social Innovation	2	※3	2	専門科目・選択	専門科目・選択	情報工学基盤科目・選択
		Enterprise in Action	2	※3	2			
B	Introduction to Environmental Science	2	※3	2				
	Land Journeys and Ethics	2	※3	2				

★1 2018 年度以前入学生 Improving English Intensive 4 単位を、外国語必修単位 CS(1)・CS(2)・TP<2 年次配当>の 4 単位で認定
 ★2 2019 年度入学生 Improving English Intensive 4 単位を、外国語必修単位 CS(1)・CS(2)・RW(1)・RW(2)・TP<1 年次配当>の 4 単位で認定
 ★3 2020 年度以降入学生 Improving English Intensive 4 単位を、外国語必修単位 CS(1)・CS(2)・RW(1a)・RW(1b)・RW(2a)・RW(2b)・TP<1 年次配当>の 4 単位で認定
 ※1 海外大学での開講科目 (名) は、変更となる場合がある。
 ※2 入学年度により、本学での認定科目は異なる。
 ※3 学則第 43 条に則り、海外大学で単位を修得した科目名称のまま、本学で単位を認定する。

(別表 2-2) 単位認定表 [TUCP] : 横浜キャンパス (環境学部・メディア情報学部)

派遣先	派遣先大学での開講科目名 ※1	単位数	本学での認定科目名 ※2	単位数	環境学部 認定科目区分	メディア情報学部 認定科目区分	
カンタベリー大学 (UC)	Improving English Intensive	4	Improving English Intensive(1)	1	外国語必修単位の4単位で認定 ★1 ★2 ★3 ※ 英語の必修科目を修得済みの場合は、 外国語科目・選択で認定		
			Improving English Intensive(2)	1			
			Improving English Intensive(3)	1			
			Improving English Intensive(4)	1			
	TUCP Specialist Course in Engineering	4	※3	4	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	
	以下のA群及びB群から1科目ずつ(計2科目)を選択する						
	A	Strengthening communities through Social Innovation	2	※3	2	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択
		Enterprise in Action	2	※3	2		
	B	Introduction to Environmental Science	2	※3	2	専門基礎科目・選択	
		Land Journeys and Ethics	2	※3	2	教養科目	

- ★1 2018年度以前入学生 Improving English Intensive 4単位を、外国語必修単位CS(1)・CS(2)<1年次配当>・RW(2)・TP<2年次配当>の4単位で認定
 ★2 2019年度入学生 Improving English Intensive 4単位を、外国語必修単位CS(1)・CS(2)・RW(1)・RW(2)<1年次配当>の4単位で認定
 ★3 2020年度以降入学生 Improving English Intensive 4単位を、外国語必修単位CS(1)・CS(2)・RW(1a)・RW(1b)・RW(2a)・RW(2b)<1年次配当>の4単位で認定
 ※1 海外大学での開講科目(名)は、変更となる場合がある。
 ※2 入学年度により、本学での認定科目は異なる。
 ※3 学則第43条に則り、海外大学で単位を修得した科目名称のまま、本学で単位を認定する。

(別表 2-3) 単位認定表 [TUCP] : 等々力キャンパス (都市生活学部・人間科学部)

派遣先	派遣先大学での開講科目名 ※1	単位数	本学での認定科目名 ※2	単位数	都市生活学部 認定科目区分	人間科学部 認定科目区分	
カンタベリー大学 (UC)	Improving English Intensive	4	Improving English Intensive(1)	1	外国語必修単位の4単位で認定 ★1 ★2 ※ 英語の必修科目を修得済みの場合は、 外国語科目・選択で認定		
			Improving English Intensive(2)	1			
			Improving English Intensive(3)	1			
			Improving English Intensive(4)	1			
	TUCP Specialist Course in Engineering	4	※3	4	専門科目・選択	教養科目	
	以下のA群及びB群から1科目ずつ(計2科目)を選択する						
	A	Strengthening communities through Social Innovation	2	※3	2	専門基礎科目・選択必修	教養科目
		Enterprise in Action	2	※3	2	専門科目・選択	
	B	Introduction to Environmental Science	2	※3	2	専門科目・選択	
		Land Journeys and Ethics	2	※3	2	教養科目	

- ★1 2018年度以前入学生 Improving English Intensive 4単位を、外国語必修単位CS(1)・CS(2)<1年次配当>・RW(2)・TP<2年次配当>の4単位で認定
 ★2 2019年度以降入学生 Improving English Intensive 4単位を、外国語必修単位CS(1)・CS(2)・RW(1)・RW(2)<1年次配当>の4単位で認定
 ※1 海外大学での開講科目(名)は、変更となる場合がある。
 ※2 入学年度により、本学での認定科目は異なる。
 ※3 学則第43条に則り、海外大学で単位を修得した科目名称のまま、本学で単位を認定する。

●人間科学部児童学科は、TAP・TUCPに参加した場合、4年間では保育士資格および幼稚園教諭一種免許状を取得できない場合もあります。

上記の記載内容(開講科目名など)は変更される場合がありますのでご了承ください。

◆ 留学プログラムに関するお問合せ先

国際センター (事務局国際部) 世田谷キャンパス 1号館 1階 メールアドレス studyabroad@tcu.ac.jp

